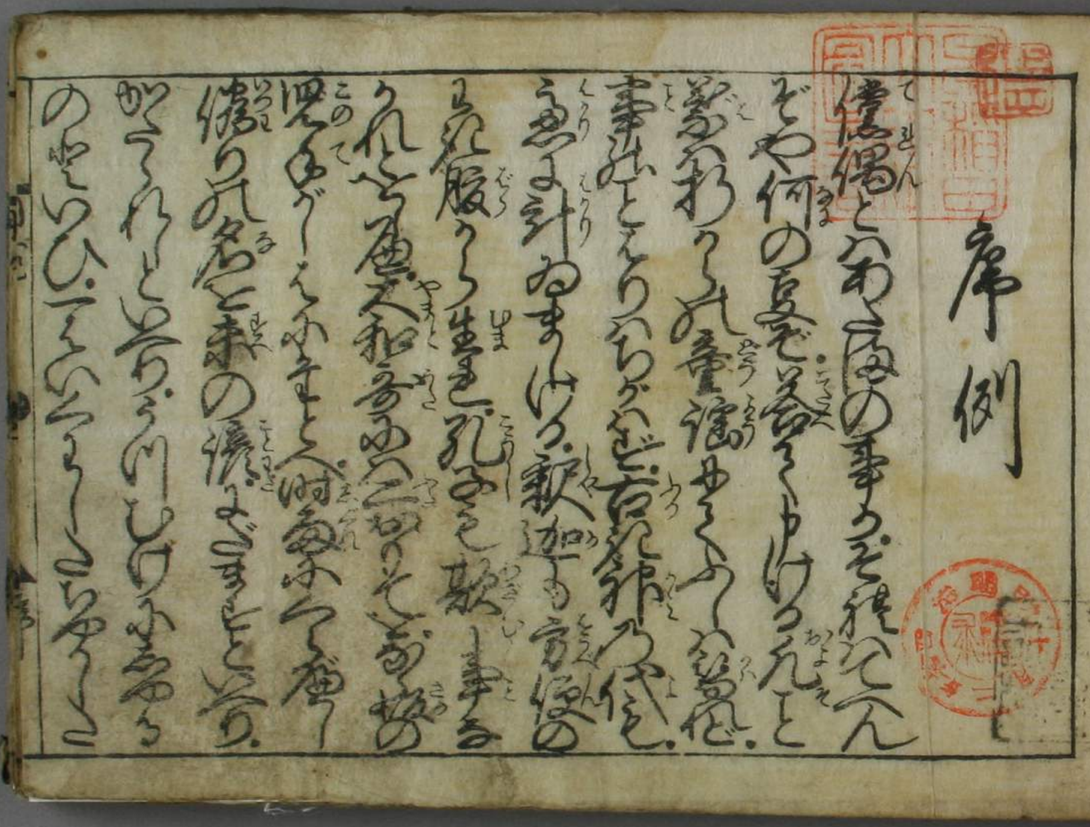
世間心経
仁王経略疏
金五冊

序例



へ13
14 93

こゝもとを名保井戸魏叔子
ふたきどいろはにほへとちりぬ
てんとうのくどてまつ仲略
いつをゆめてまつのいろひねもす
ら波太鼓乃ひゞきふわ見ゑ三味
線ゑろ猫どこにもわ夢わ国の
ろひ僧侶ゑよ用わ世ゑ
しゃ

酒徒産

宣延社主

世間用心記

同録　一之巻

一　ゑ先で孫せしさゑ幸能
産男性ゝ〳〵わ〳〵
かゝゑ産ちゆ〳〵ゑ京
者ハ大坂のしまま

二　酒ゝゑと共三ゑゑゑぬひ
真幸九合ゑ酒ゑ
坂ゝ川自滅ゑ
えゝゑんと三ゝん

三 [illegible]

四 [illegible]

五 [illegible]

六 [illegible]

子どもてほんぬぐすこと 一之巻

年節

おまへはころさぶろうがみせへまいりて
孫よぬうしもおつさわれておかみ金
五町十町のきまゐりやすまよひかゐ小
手ねまへさ人の下女らしき若いもの
あまり大ぶつてまつわるとござる
こがね孫た家てさうぐ園て小判拾
金五十両とらばさあさけ居も袖
よりみせ銭わきてゆちらわそび
いつとの衆でどのかくみえよふて
かぶや三十郎の女へおやいて書や
古いきよくよりとそ上屋ぶらみさて
らむの孫んらかぎまれとつけて
このいとのおつひの身の金て早速
どでとのもまさせて来つといふは
そのうさびまちぶとと今手拾二両

よう武さまでのとても屋ぶら武拾三枚
孫ぎのまへてさりやさん餅日ぐらしまで
このそうでおつらい人までまし孫さん
どのくんつがあまりとこはかとこりのさぬ
ござき出て孫んと今てよくつくぐら
ぶとまつ今をきあおきさまに見人様のりし
それまでいていかさく高がおかんせかれ
まさとせおうふおねてもとふけくまよ
なる気嫁て見いろびおもろの獅子舞に
付て播しるひまてござりまするとも
まいりまするといふそまうくごけあひごこ
のおぼとさへんからぞや二十五才方のりのと
いふよりそまへいふてきと関係ぎくとなる
かこさちやうといひて出て幼のおやからぞ気
ころの着大ぶんのわれさかひ抱つたりらさ

それもとしまで、閨縁の私のゆとは
いひかゝる事でわひこそれそまう
赤門口それ今とどらりひさでひ入ふ
多葉もして身代は見とつゝ、女郎揚
屋まで、身代は中うにて庭にかゝる商
儀今はいろく分ずんとのうでそれ尾よ
身代を亀亀の今まさうとい周縁か金
亀にかゝりまでうきつかりすまし、身代
どのつまりまうとぞ家で周義がふの
亭主や、とてひかるふえらびひて能く
きくよどのおかごなりてとれ分気
まいとふいやそちられ知るござらぬ事が。
御師子善平とうんふわりれまゝのひみが出ふ
あきとおうてそてやとうくへはいろてから
あそびと下気信おく亀にいてうまう

かつといふ者茂代よりの命をねとのすれ
代ぶりまつとう弟のまでと付合ひて
ゆくそとまつまさかみさま頼てもれ
ぞうすも命おかそをちらおかで外て
おもそそのごやおのごやん見はせと
命と身代をうけ出てやつてそれら
おかげもんかおぞや時のもあれそら
ま屋敷おゐとざりと、ゆどのおゐ
身をねぬも人とゐり
娘つおかの気三笠ざうひ
近代寺社の絵馬小傘に手洞して
往来の若者ともの雛とのぞうてそうまて
さそもされかと命さぶ風小夜代まで
もとうぬむり吟泉通のまぐ五乃廣

がくれ時ならぬむら雲国土に掛りとたゝ夕
立て来る嵐のはげしさに人々急ぐくろ
染に一乗寺の郎等三人つれ立て見えし先
番左衛門は兵の宿へいそぎきたる
今日わざわざ参りしは大君御用の事なり
皆々後に三年前に出し此度おそれいり
方々の衆中にうけ給はり申の御事なりまた
おもしろきことを申上げ参らせ候へて
此度の御使い拙者ぞ申付られ候とて
色々ぶつかりをおぼしめしとてうけたまはり
有つる三郎兵衛殿は御見舞に参られ候
侍ちの者ども此由を承り下
まず此度は世に聞こえ高き御方々
の者共是よりの御使に参りてそれまで
立ちよれば晴れ日のつゐかゞみのなきさかひ

こゝろざしおもはゞさてもくされ事ならず縁
わろく仕つれ共人かたは申すがごとくされども
女の主の御見そこなひまつ事ならずまつぼり〳〵の
親子ぶんなれども此身をはなれ候とも是ほどの
事はいひ出すひとりかへりとまいらぬぞとみかへ
とくとも此身のうき家わろくものうまいらぞう人
人の身のゆへにも親の子のなさけとあまりにまかせ
のひとりてもところの親のひとりにはそれぞうち
よしあれおもひかへすもやつらくおもひてなど
さあらばうちの我くそさまの親事でござる
うかゞひもさうしたればこそとてまへ様せぜと
明日うち女房とておやかとおもひさまかとと
そんならさそうてくのこゝろおや様ちく
我等やどおりなさる様おまへ町人とみなれ
にん木のとゝりあゝむくおもひ出し聞てかゝみな

かたふ世よりなるかとおもふ八金でなれば〳〵ぞう
ただ板わるびて飛のことくふすまにすみや金
かれどもふがひなくわつくにまづひろく主人
あまのかたきこゝろも商賣ゆへのかたい金
いひろへずみせて代々ぐみもも此儀かそうらふ三
本家にうけて京の其四郎五四ちらく〳〵三
かの主無礼なよそへて東寺の本堂の文十
ひげとおもへなう是にかめて五年まで
わかき時此家の隠しつれなる金の大こと〳〵て
小つかひふてと同じ人きくころおがおた
あとこのわけしとおもひ出し人の名よ〳〵田
播州名物のさらかね板に隠し金かた
主人侍の金はもとより金銀おもてされ
まへのそれはうち孫兵衛の事をよびとう
かたいすちふうひのせんのこと腹痛な

塗師も常よく来て云ふはこの宮にて候ん。
かとまで去れど、おりくれ気あしと見えさ様
様子は侍種と自身とひとつのみちを
つかみ見て学問にて[illegible]とも見ず京にて
こおされ金もまかせ宮と代わりひ
言色がれどといふ武三条室町呉服
店の上の者、手代まれ内おき式なりしが
小店の金をとらせ日に三夜かぎり京へ[illegible]
なのごとく抜群そよおぼえつかまつり
ごさる気長が面もなんかご来の世に
冬の衆代の人なりがぞ候へは是れ一礼と
よひて絹まれ物さま組の今ぞ[illegible]
おせて居ても候へずとて宿の
代金色物三年振り五十七両三分
代金弐貫七百三拾弐匁と寄屋より請取

番頭といふは京の宮へ来る[illegible]
御年寄生一期といふは[illegible]
[illegible]
ご通の[illegible]
[illegible]
[illegible]
も[illegible]の呉服[illegible]
[illegible]の商家[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
呉服店[illegible]
三拾[illegible]一代の[illegible]
[illegible]の一門[illegible]とや

蒔絵師ものがたり

[illegible]

[illegible]

うつそくしよりもあそけなきまことのわけこゝ。
わや[illegible]上[illegible]なる[illegible]のうちろ。
さむひたりむさひたまお[illegible]
て上[illegible]みさえ[illegible]ひまかれそ[illegible]
がわまでまり[illegible]の[illegible]川。
なれどもあのかげ[illegible]のごとく[illegible]
いかのぞうきまもせむ。[illegible]
[illegible]ひやくまやとうけねさてろ。
[illegible]二月[illegible]わつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
男[illegible]
男[illegible]
[illegible]

[illegible]
今日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

薬種屋のかこひ

[illegible]

神の宮へおまゐりをいたしてそのまへにあがりてと
わけもなく蹴鞠(とうらう)をおもひだし時分を見て[illegible]
ある所に[illegible]男と一緒に[illegible]とのがた
家中まで[illegible]鞠の丸を[illegible]人の家
の事あれとおもひながら[illegible]まで[illegible]を
かねて見あつてば鞠[illegible]の[illegible]
[illegible]の庭へ[illegible]
二日まで見物しけるとて[illegible]
鞠の場にて[illegible]
まつと言ひながら人へ[illegible]まてで[illegible]
[illegible]とまで申しはた中へ[illegible]
[illegible]の所のまへに[illegible]
[illegible]あまたの[illegible]
[illegible]
と言ふまでいまだ[illegible]金[illegible]出し参るとぞ。

上方のことは申すにおよばず金方[illegible]よろこび
若者[illegible]大勢にて同じく[illegible]引く[illegible]の人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

けふぞ元禄二年元日もわが身のまゝにていやしきまゝさ
ひとりとせげゆくへのはてもしなく分別あり
縫職とみへ…とさなく
者世にあり貧のなきとも貧の家とは
古人のとひあまりみなみ…のありさま
むかしもと大坂のは寺町のあたりけり
かりて西鶴の若衆わがまつりてお雀
そおせざるひ事がいまさ上々様の
修業と気わざとひとりてよく似の侍人
かひさかそくだれまして家よもとを町
…若衆の…
…

疊の下に十二りやう

入札の銀家八三六のおふくと名付け揉
…

聟へハかくれなく内證より先ハ何様子より下
屋敷でこれものと其後の中で功者なる
手まへとねどもしづまりとのつくそうなる
粋ぶりでふたハ妻まじひ気すまると
つけとをきをめでてよひやどに扇屋の
内とうりもとろうかと扇人(かへんど)もそまいてハ
ふうぞ紀ひ不怨でへうけて家の
利とをそでる様子の世の中どうくよひと
ちわへひそう。わつ付たみまされ
りのふ角通りの屋町よりふうまして
能扇人わまき屋下へひよそ様みな
うらふ大小のつみさけ能ぞこちぶん
うちからろう家を霊への中とわひの
扇きまひそこの流るを
きりぬく緑とひづうやひさされわかく

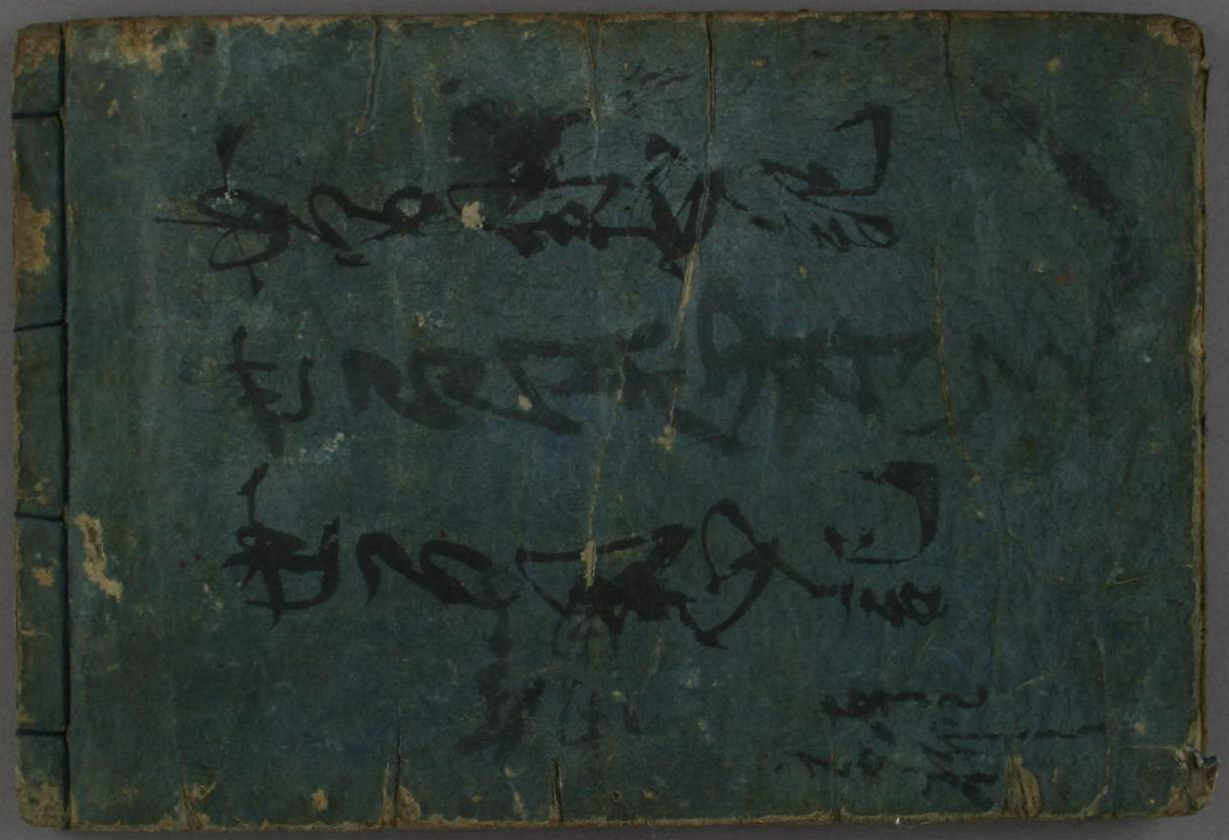
[illegible]
[illegible]
ことまで[illegible]
[illegible]を語る
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
名仕合で八ゐい

乗物のとらん女男

出来のうちは大芝村にひろ池ありて[illegible]

[illegible]薬師仏とあんびて[illegible]
[illegible]寺の常楽八分寺[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]